

皆さん、おはようございます。

今日で令和7年度の三学期が締めくくりとなります。

始業式で、私は皆さんに「未見（みけん）の我」という言葉を贈りました。

覚えていますか。「まだ見ぬ自分」に出会うために、失敗を恐れず果敢にチャレンジしよう、という話です。この三学期、皆さんはどうでしたか？

自分の殻を破るような一歩を踏み出せたでしょうか。

先日、本校を巣立っていった卒業生の姿を、皆さんはどのような思いで見つめていましたか？ 一年後の自分に、どんな姿を重ねますか？ 望みますか？

今日から皆さんは、名実ともに清水西高校を背負って立つ存在となります。

そこで今日は、新学年に向かう皆さんに、ある一人の偉人の言葉を贈ります。

世界的な建築家であり、九十歳を過ぎてもなお現役で挑戦を続けた安藤忠雄さんの言葉です。彼はこう言っています。

「自分自身の価値を上げたいなら、あえて困難な道を選びなさい。挑戦することだけが、風景は変わらない」安藤さんは偉大な建築家でありながら、実は大学で建築学等を専門的に学んだわけではありません。安藤さんの前職はプロボクサーでした。大学には行かず、毎日15時間以上も自宅に籠って、本来四年間で学ぶことを猛勉強して、一年間で習得してしまいました。建築士の試験に一発で合格したのも有名な話で、現在は東京大学の特別栄誉教授にもなっています。

つまり、安藤さんは独学で建築を学び、その後建築家になってからも、何度も挫折を味わいながらも、常に「今の自分に満足しない」という強い自覚を持って歩み続けています。主な作品として、『住吉の長屋』、『光の教会』、『地中美術館』などがあり大変有名ですが、このほかにも、国内外の著名な建造物の建築にも携わっている方です。

皆さんにお願いしたいのは、「自分自身の価値を高めること」、そしてそれが同時に「清水西高校の価値を高めること」に直結している、という自覚を持つことです。

チャレンジなくして、自分が成長することはありません。「これくらいでいいや」と妥協するのではなく、「もう一歩先へ」と挑む皆さんの姿勢こそが、この学校のブランドになっていくのです。

皆さんがグラウンドで、教室で、地域の中で、「未見の我」に出会おうとする果敢に挑戦する姿こそが、外の人から見た「清水西高校」の評価そのものになります。

一人ひとりが「自分がこの学校の顔である」というプライドを持ってください。皆さんの挑戦は、決して一人だけの事ではありません。頑張っている人、一心不乱な人の姿は“格好いい”です。みなさんも、それはわかっているはずでず。大事なことは、自分がそうなっているかどうかです。分野はなんだっていいと思います。勉強や部活動に限ったことではありません。趣味や興味があることだっていいのです。まずは、自分がそうした「未見の我」に出会う無我夢中の姿にあることです。そして、自分以外の身近な人にそういう人はいませんか。もしいたのなら、そんな仲間の姿に何も感じないわけにはいかないでしょう。じっとしてられるわけがない。「俺だって…」、「私だって…」。一人の熱意は周りに伝播し、学校全体の士気を高め、そして何より、あなた自身の「未見の我」をさらに高いステージへと引き上げてくれるはずでず。

先日、ある部活動の送別会（送別試合）を見させていただきました。

その時に、卒業する三年生にも言葉を掛けさせてもらいましたが、一番言いたかったのは、在校生である2年生・1年生に向けてでした。

「県大会に出場する、しないのレベルで満足するな、の話 学校の雰囲気は、まさに自分たちの雰囲気（表情）だという話」

春休み、新学年に向けて「自分は何で勝負するのか」「どう責任を果たすのか」をじっくりと考えてみてください。4月まで、あと二週間ほどですが、この僅かな時間が、その後の皆さんに大きな意味を持つ時間になります。

四月に、より一層たくましく、そして高い志を持った皆さんと再会できることを楽しみにしています。

令和7年度三学期終業式校長訓話とします。

令和8年3月19日